

告示	番号	14
	疾病名	骨軟骨腫症

骨軟骨腫症

こつなんこつしゅしょう

概要・定義

骨軟骨腫 (osteochondroma) とは長管骨の成長軟骨周囲に発生する軟骨性の良性骨腫瘍であり、骨の外側に向かって隆起性に発育することから外骨腫 (exostosis) とも呼ばれる。異所性に成長軟骨様軟骨細胞集団が発生し、成長に伴って成長軟骨と同様に軟骨増殖と軟骨内骨化が起きるため、その先端に軟骨帽とよばれる軟骨組織を有する骨性隆起性病変が生じる。典型的な単純 X 線像は長管骨骨端周囲の骨との連続性を有する有茎性または広基性の骨性隆起性病変である。軟骨帽は単純 X 線では同定できないが、石灰化により確認できることもある。

骨軟骨腫は単発性、多発性がある。単発性は通常孤発性であり、多発性は 90% が常染色体優性遺伝である。家族性に発生する多発性骨軟骨腫を先天性多発性外骨腫 (hereditary multiple exostosis: HME) と呼ぶ。

症状

関節付近の骨性隆起が主な症状である。関節運動時の刺激により疼痛が生じることもある。また、無症状で単純 X 線で偶然発見されることもある。

多発性骨軟骨腫では関節変形を来すことが少なくない。特に、尺骨遠位に生じた骨軟骨腫では尺骨の短縮による手関節尺屈変形の原因となることが多く、矯正骨切り手術を要することがある。

血液検査では特に異常は認めない。

治療

治療の原則は外科的切除である。手術適応は①日常生活の障害となる痛みがある場合、②整容上の理由で患者が希望する場合、③関節変形の原因となる場合、である。

切除の際は隆起部を軟骨帽を残さないように完全に切除する必要がある。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/1_5_36.html